

	茨城大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:205 第3年次:10） 大学院理工学研究科（M:301 D:38）
沿 革	大正9（1920）年 旧制水戸高等学校設置 昭和24（1949）年 新制茨城大学設置 昭和42（1967）年 文理学部の改組により理学部設置 昭和54（1979）年 大学院理学研究科修士課程設置 平成7（1995）年 大学院理学研究科修士課程を大学院理工学研究科博士 前期課程・後期課程に改組
設置目的等	<p>茨城大学理学部・理工学研究科の母体である旧制水戸高等学校は、郷土出身である実業家の寄付行為により、当時の高等学校令に基づく国民道德の充実、高等普通教育の完成を目的として大正9年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、旧制水戸高等学校は、茨城大学文理学部として承継された。</p> <p>昭和42年、文理学部は人文学部・理学部・教養部に改組された。</p> <p>昭和54年に、一般・専門教育の基礎の上に立って、広い視野と高度の専門性をもって地域社会の要請に応えるべく、高度の能力を養うことを目的に理学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成7年、理学系と工学系の連携により、広範な分野の最先端専門知識を教授し、独創性豊かな研究者や総合的判断力をもつ最先端専門家の育成を目的として理学研究科を発展的に解消し、理工学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p> <p>平成17年に、専門分野の垣根を低くし幅広い教養・幅広い理学の知識を備えた人材を養成するため、学部組織を1学科6コース制に改組し、更に平成21年に、より専門性を担保し、かつ融合的・学際的教育体制の確保を目的として理工学研究科博士前期課程のうち理学系3専攻が1専攻（理学専攻）に改組された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>茨城大学は、北関東及び南東北地域で理学分野の教育・研究を担う大学として、知的探求心に基づき、自然界の普遍的真理を追求するとともに、未来を担う若者に自然科学の基礎を教授することを通じて、人類社会の発展や文化の進展に貢献する教育、研究、社会連携に取り</p>

組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 倫理観を醸成する教養、認定教育プログラムを含む国際通用性のある体系的な基礎理学、就業観等を身につける教育を展開し、修士課程においては、科学技術創造立国を支える高度職業専門人育成の役割を果たすとともに、博士課程においては、論理的思考力を有し課題解決できる高度な実践的研究能力を有する人材育成の役割を果たす。
- 学習相談室など自律的学習を促進する学生サポートプログラム、地域の先端研究機関と協働した教育プログラムなどの特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、高い課題発見能力・課題解決能力を有しグローバルに活躍できる理学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
理学系・工学系・農学系の連携を通じた共同教育プログラムを構築し、基礎科学と応用科学を融合しつつ、新しいイノベーション人材を育成する大学改革を目指す。
- 地域の研究機関等と共同推進している物理・化学・生物系を基軸とする原子科学分野等の研究を展開するとともに、宇宙観測や深海掘削等の国際共同研究の実績を生かして理学の諸分野の研究を推進し、我が国の理学の発展に寄与する。
- 茨城県をはじめとする周辺地域の振興サポート、地域向けのサイエンステクノロジーフェスタの開催、福島第一原発事故後の対応など、地域と連携してきたこれまでの実績を生かし、学術の進展や地域の知識社会化の推進に寄与する。
- 大学院への社会人受け入れ促進や地域企業における研究成果の応用等の積極的展開などを通じ、地域の産業界の高度化・活性化に資する。
- スーパーサイエンスハイスクール事業支援、高校生の科学研究発表会開催、科学体験教室開催、国際科学オリンピック参加学生支援等の高大連携事業を積極的に展開するとともに、小・中学校理科教員を対象とした理科研修講座を開催し、地域の小・中・高校生及び小・中学校理科教員を中心に自然科学に対する理解・関心を深めることに資する。